

Back Number

本論文は

世界経済評論 2022年9/10月号

(2022年9月発行)

掲載の記事です



世界経済評論

定期購読のご案内

年間購読料

1,320円×6冊=7,920円

6,600円

税込

17%

送料無料

OFF

富士山マガジンサービス限定特典

※通巻682号以降

定期購読
期間中

デジタル版バックナンバー読み放題!!



世界経済評論 定期購読



☎0120-223-223

[24時間・年中無休]

お支払い方法

Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。
お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

Fujisan.co.jp
雑誌のオンライン書店

米中経済摩擦の政治経済学 ： 大国間の対立と国際秩序

名古屋大学名誉教授 平川 均



[編著者]

中本 悟 (なかもと さとる)
立命館大学経済学部特任教授
松村博行 (まつむら ひろゆき)
岡山理科大学経営学部教授

[発行] 晃洋書房, 2022年3月

[判型] A5判, 264ページ

[定価] 本体2,800円+税

世界経済の構造変化が加速している。第2次大戦後に生れた世界秩序は、正念場に差し掛かった印象を受ける。

本書は、2018年に始まる米中2大国間の貿易摩擦に焦点を当てて、対立と貿易の変容、その影響の解明を試みる。3部構成11章からなり、章立ては以下の通りである。序章「本書の課題」(中本悟)、第I部「米中貿易の解明」第1章「アメリカン・グローバリゼーションと中国経済体制」(板木雅彦)、第2章「米中間における貿易不均衡の構造」(田村太一)、第3章「付加価値貿易から見た米中貿易」(小山大介)、第4章「大国の食料貿易」(千葉典・渡邊英

俊)、第II部「激化する技術・知的財産をめぐる覇権争い」第5章「自由な越境移転か、ローカライゼーションか」(森原康仁)、第6章「中国のハイテク産業と技術の現状」(近藤信一)、第7章「科学技術領域にみる米中対立の構図」(松村博行)、第8章「米中経済のデカップリングとアメリカ製造業の『復活』」(井上博)、第III部「米中の大国間対立と国際秩序」第9章「米中関係の現段階」(中川涼司)、第10章「『一帯一路』と受け入れ途上国」(井出文紀)、第11章「米中2つの資本主義体制の経済摩擦」(中本悟)。

第1章は、米中対立の主要因をGATT・WTO体制へ復帰した中国の異質な資本主義体制に見る。第2、3章では、低付加価値生産を担った「世界の工場」からの中国の脱却が考察され、4章ではFTA締結国からの食糧輸入の傾向的増加が確認される。第5～8章は、貿易摩擦の本質が技術覇権にあることを論じる。第9、10章では中国の韜光養晦路線からの脱却と米国の政策、そして一帯一路が検討される。第11章は総括の章であり、嘗ての日米貿易摩擦を振り返りながら、米中対立の性格が総合的に検討される。多国籍企業が創る深く絡まる国際分業と貿易構造の高度化、WTOの限界と今や攻守所を変えた対立、そして中国の国家主導の産業政策が対立の震源にあって解決が困難なため、対立の長期化が予想されている。

米中間に強固に張り巡らされた国際分業と経済関係、激しい技術覇権争いの実態、制裁と報復の関税引上げ合戦がもたらす両国の痛みなどを、本書は多面的に検討している。2020年1月の米中「第1段階の合意」をあざ笑うかのように新型コロナウイルス感染症が勃発し、世界を襲った。本年2月にはロシアのウクライナ侵攻が始まった。米中対立はさらに深まり、グローバル化した経済構造は修正が迫られる。その分断が極めて困難であると同時に、どこまで進むか。読者は本書を通じて米中対立の理解を深め、かつ様々に考えさせられるだろう。推薦したい1冊である。(ひらかわ ひとし)